

2018年4月27日

SMBC・アムンディ プロテクト&スイッチ[®]ファンド（愛称：あんしんスイッチ[®]）

本日より野村證券で取扱開始

アムンディ・ジャパン株式会社

アムンディ・ジャパン（東京都千代田区、代表取締役社長：ローラン・ベルティオ）が2017年7月28日に設定、運用する投資信託、「SMBC・アムンディ プロテクト&スイッチ[®]ファンド（愛称：あんしんスイッチ[®]）」を本日より野村證券で取扱開始いたします。

あんしんスイッチ[®]は、基準価額の下値を一定の水準で確保する新しいコンセプト（プロテクトライン[®]）を付加した日本初^{*1}の商品として2017年7月より三井住友銀行を通じて販売を開始し、純資産総額は本年3月末日現在2,300億円を超えて国内籍公募追加型投資信託 資産複合型で国内3番目の規模^{*2}に急成長しています。この度、SMBC日興証券（2018年1月16日取扱い開始）に続き、野村證券が新たに販売会社として加わることで、より幅広い投資家層への商品提供が可能となりました。

当ファンドを含むアムンディ プロテクトシリーズ^{®*3}はアムンディの欧州における長年の販売と運用実績を基盤に、2016年1月に「アムンディ・ダブルウォッチ（純資産総額1,450億円（2018年4月24日現在））」として日本市場に導入され、特に資産運用のリスクに敏感な投資家を中心にご支持をいただいています。本年4月26日現在、シリーズの合計純資産総額は3,700億円を超え、資産運用の新しい選択肢の一つとして日本市場においても定着しつつあります。

今後もアムンディ・ジャパンは長期投資の視点から投資家の皆さまの資産形成をサポートするソリューション商品の提供を通じて、日本市場の発展に貢献してまいります。

※1 出所：モーニングスター調べ

2017年4月末時点。国内籍公募追加型株式投信において、モーニングスター大分類「バランス型」（確定拠出年金及びファンドラップ専用、ETF等は除く）に属し、交付目論見書の投資目的・特色の欄において、基準価額を一定水準で確保するタイプとして考えられるファンドを対象。

※2 出所：Fundmark 国内籍公募追加型投資信託 協会属性 投資対象資産 資産複合型のファンドを対象 2018年3月末日の純資産総額による。



※3 アムンディ プロテクトシリーズ[®]について

「アムンディ・ダブルウォッチ[®]」「アムンディ・ダブルウォッチ ジャパンシフトTM」「SMBC・アムンディ プロテクト&スイッチ[®]ファンド」を包括する資産保全型ファンドをシリーズ化したものであり、アムンディ プロテクトシリーズ[®]の商品コンセプト等は特許出願中です（特願 2017-129052）

プロテクトシリーズ[®]、プロテクト&スイッチ[®]、あんしんスイッチ[®]、プロテクトライン[®]およびダブルウォッチ[®]は、アムンディ・ジャパンの登録商標です。TM=商標登録出願中

アムンディについて

アムンディはフランス・パリに本拠を置き、世界6都市の主要な運用拠点^{※1}を通じて190兆円^{※2}を超える資産を運用する、欧州No.1^{※3}、世界トップ10^{※3}の資産運用会社です。2015年11月ユーロネクスト・パリ市場に上場。資産運用会社の株式時価総額で欧州No.1^{※4}を誇り、世界37の国・地域の事業拠点を競争力の高い運用ソリューションを提供しています。アムンディの一貫した目標は、日本でもグローバルでも、お客さま本位のビジネスの実行で、個人投資家および機関投資家に対し、革新的で透明性の高い運用ソリューションの提供に努めています。

公式ウェブサイト：amundi.co.jp

- 1 主要運用拠点：ボストン ダブリン ロンドン ミラノ パリ 東京（アルファベット順）
- 2 運用資産額は、2017年12月末日現在。約1兆4,260億ユーロ、1ユーロ=134.94円で換算。
- 3 出所：インベストメント・ベンション・ヨーロッパによる資産運用会社トップ400社（2017年6月版、2016年12月末日の運用資産額）に基づく。
- 4 2017年12月末日時点の発行済株式の時価総額に基づく。

本件に関するお問合せ先：アムンディ・ジャパン株式会社 広報室

e-mail：pr@jp.amundi.com 直通：03-3593-5700

投資リスクについて

ファンドは、主として世界の株式、債券、不動産投資信託証券（関連する証券（上場投資信託証券等）を含みます）等の値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクがあります）に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。ファンドの基準価額の下落により、損失を被り投資元本を割込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因としては「価格変動リスク」「金利変動リスク」「為替変動リスク」「資産等の選定・配分リスク」「流動性リスク」「信用リスク」等があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

手数料・費用等

投資者の皆さまに実質的にご負担いただく手数料等の概要は以下のとおりです。ファンドの費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。くわしくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

〈投資者が直接的に負担する費用〉

購入時手数料	ありません。	信託財産留保額	ありません。
--------	--------	---------	--------

〈投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用〉

運用管理費用（信託報酬）・保証料	純資産総額に対して年率 1.4404%（税込）以内 ※ ※ファンドの信託報酬年率1.2204%（税込）以内に保証料年率0.22%を加算しております。ただし、基準価額がプロテクトラインまで下落し、繰上償還が決定した場合は、繰上償還決定の翌日から償還日までには保証料（年率0.22%）のみとなります。 ◆上記の運用管理費用（信託報酬）および保証料は当資料作成日現在のものです。
その他の費用・手数料	その他の費用・手数料として下記の費用等が投資者の負担となり、ファンドから支払われます。 ・有価証券売買時の売買委託手数料および組入資産の保管費用などの諸費用 ・信託事務の処理等に要する諸費用（監査費用、目論見書・運用報告書等の印刷費用、有価証券届出書関連費用等を含みます。） ・投資信託財産に関する租税 等 * その他の費用・手数料の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。

当資料は、SMBC・アムンディ プロテクト&スイッチ®ファンドへのご理解を深めていただくことを目的として、アムンディ・ジャパン株式会社が作成した資料です。当ファンドをお申込みの際には投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡します。必ず内容をご確認のうえご自身でご判断ください。